

2025年度「駿大社会人基礎力アンケート」回答結果

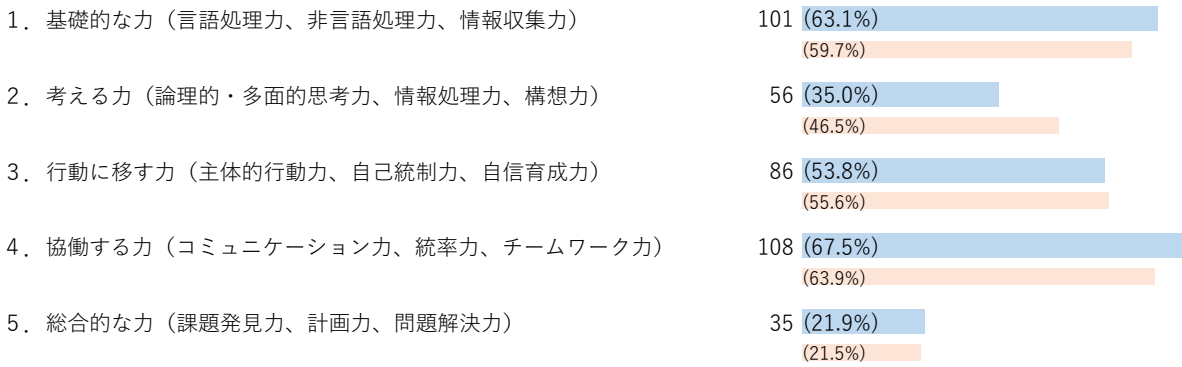
依頼数590社、回答数160社
2025年度データ：青
2024年度データ：オレンジ

本学では、ディプロマ・ポリシーに基づき、学生が社会で求められる五つの基礎力（基礎的な力、考える力、行動に移す力、協働する力、総合的な力）を身につけることを目指しています。これらの教育目標の達成度を検証するため、2024年度卒業生を採用した企業・団体を対象にアンケートを実施しました。卒業生の基礎力の発揮状況を把握し、教育プログラムの改善に役立てることを目的としています。

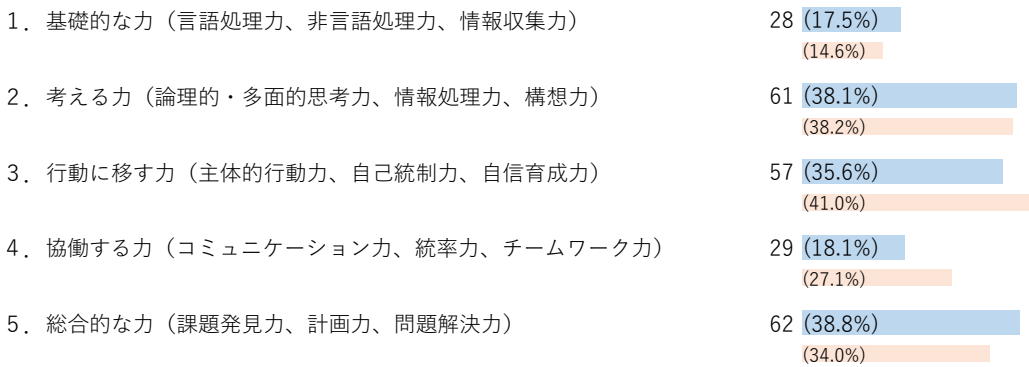
企業が採用時に評価した基礎力の中で最も高く評価されたのは「協働する力」（67.5%）で、昨年度（63.9%）より上昇しており、コミュニケーション能力やチームワークの重要性を反映しています。また、「基礎的な力」（63.1%）も引き続き高く評価され、社会人としての基盤が着実に身につけていることがうかがえます。一方、企業が不足を感じた基礎力では「総合的な力」（38.8%）が最も高く、次いで「考える力」（38.1%）、「行動に移す力」（35.6%）が続きます。「行動に移す力」については昨年度（41.0%）から数値が下がっており、不足感がやや改善されたと考えられます。行動に移す力が高まりつつある一方で、課題発見や論理的思考の面では引き続き強化が必要です。

また、企業が今後採用時に重視する基礎力としては「協働する力」（75.6%）が最も高く、行動力とともに重要視されています。「協働する力」は、身につけていた基礎力でも1番高い数値であり、不足していた基礎力の数値も昨年度より下がっていることから、教育の成果が現れているといえます。今後は、この強みを維持しつつ、思考力や課題解決力をさらに高める教育の充実が求められます。

採用時より身につけていたと思われる基礎力



採用時、不足していたと思われる基礎力



採用する際に重視したい基礎力

